

## 第4回カンヌ日本文化フェスティバル参加報告

Report of Dance Performance at The 4th Japan Festival in Cannes

増 山 尚 美

Naomi MASHIYAMA

### I はじめに

#### 1. 研修目的

フランスではカンヌ映画祭を始め、アビニヨンの演劇フェスティバルなど、年間150以上のフェスティバルが各地で開催され、多くの観客を集めている。内容もクラシック音楽からオペラ、ジャズ、演劇、ダンスや、変わったところではパントマイム、人形劇、サーカスのフェスティバルまで多種多様である。フェスティバルは、複数の出演者や団体によって、数日間異なるプログラムが上演される。遠方からの観客は開催期間中その地域に滞在することになり、鑑賞者としての受動的な体験をするだけでなく、祭りを盛り上げる一員としての参加意識が高まる。また地域住民にとっても、フェスティバルは新たな作品や人との交流の場となる。フランスでは、作品の質の高さや海外からを含む観客動員の点でもフェスティバルが成功しているといえる。日本ではダンスや演劇などの上演芸術は、興業的に成立しにくく、アートマネジメントの重要性が論じられるようになってきたのは、ようやく最近のことである。

この度、第4回カンヌ日本文化フェスティバルに参加し、モダンダンスを上演する機会を得た。観光が地域の活性化に大きな比重を占める点で北海道とも共通する南フランスの地方自治体が企画する、地域と結びついたフェスティバル形式の文化事業のあり方をダンスの分野を通して考えてみようと思う。

#### 2. 研修期間

平成7年4月15日より4月23日の9日間

#### 3. 研修場所

フランス 主としてカンヌ市

#### 4. 研修概要

第4回カンヌ日本文化フェスティバルに参加し、カンヌ国際文化フェスティバルホールにおいて上演された、モダンダンス「幻の狼」及び「RUNNER」の2作品に出演した。詳しくは研修内容の項で触れる。

## II 研修内容

### 1. 第4回カンヌ日本文化フェスティバルについて

#### (1) 主旨

文化交流を目的に3年前から始められ、日本からの参加者も年々増えている。主催はフランス・カンヌ市とカンヌ観光局、企画はエールフランス国営航空、後援にフランス政府観光局と在マルセイユ日本総領事館、協力はPALAIS DES FESTIVALS ET DES CONGRESである。カンヌ市広報局及び観光局が約2カ月前から新聞、テレビ、雑誌、ポスター等による広報活動を開始し、フェスティバルは無料で公開される。カンヌはニースにつぐコート・ダジュールの国際的なリゾート地として知られ、観客にはフランス国内外の観光客も多い。年間を通じて各種イベントを企画しており、地域の人々との文化交流だけでなく観光で訪れる人へのプログラム提供の目的も大きいと考えられる。

会期：1995年4月19日、20日、21日(3日間)

場所：フランス カンヌ市

会場：カンヌ国際文化フェスティバルホール

(Palais des Festivals des Congres)

(展示会場) 3階展示ホール及び特別デモンストレーション用小ホール

(舞台会場) クロード・ドビッシェ劇場

パレ・デ・フェスティバルと呼ばれるこの会場は、白帆を上げた無数のヨットが紺碧の水面に浮かぶ地中海のビーチ沿いに伸びる、カンヌの表通りラ・クロワゼットの西側に位置し、カンヌ映画祭のほか大規模な催し物が行われる。会場内にカジノも有している。

#### (2) プログラム

プログラムは展示関係と舞台上演に分けられ

図1 プロヴァンス地方、地中海に面するカンヌ市

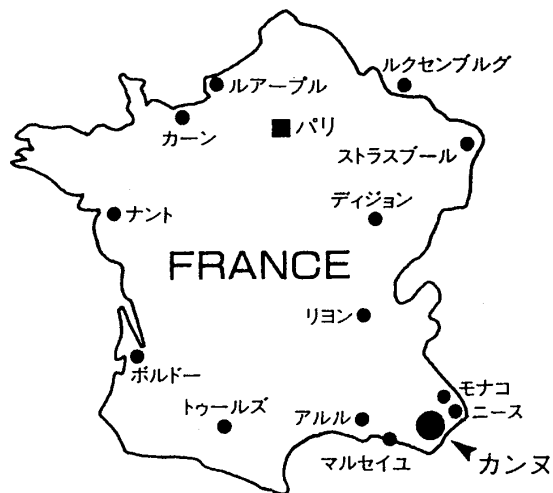


図2 カンヌ国際文化フェスティバルホールの会場見取図

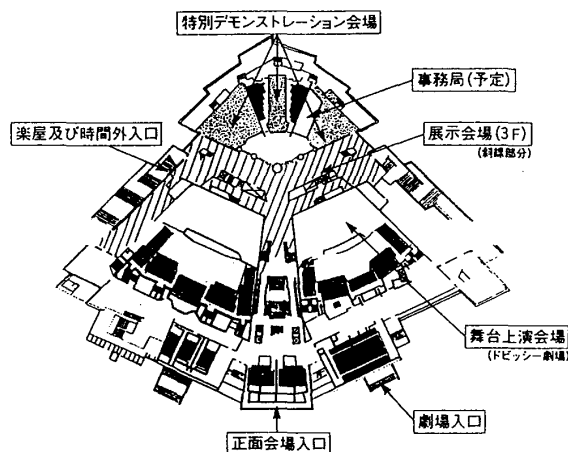


写真1 会場となったカンヌ国際文化フェスティバルホール正面

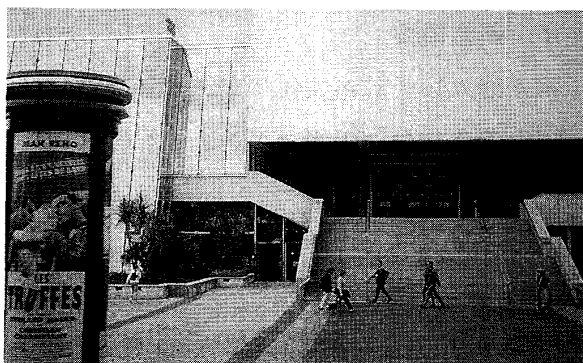
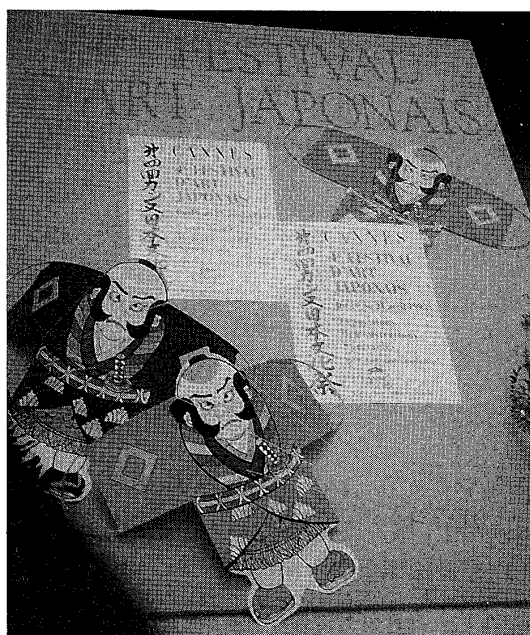


写真2 ポスターのはられた会場の一角



る。各団体及び会場ごとに日仏英の通訳がつき入場者との交流も盛んに行われた。展示関係では茶道の茶器などは出展者が持参していたが、釜や屏風は主催者が準備し、花材は日本から空輸され毎日生け替えられるなど、スムーズに運営されていた。書や着物といった日本の伝統的なものから、パッチワーク作品など現代性のあるものまで変化に富み、華やかに展示されていた。デモンストレーションも好評を博していた。

今回の参加は以下のとおりである。

a. 展示とデモンストレーション (Expositions  
Permanentes & Demonstrations)

ORIGAMI-ART DU PLIAGE: Association  
d' Origami du Japon,

FLEURS PRESSÉES: Groupe Somai

PEINTURE JAPONAISE・LAVIS・CALLIGRAPHIE・PEINTURE・OCCIDENTALE・  
PEINTURE TEINTÉE・LAVIS AVEC HAIKU・GRAVURE DE SCEAUX・CÉRAMI-  
QUE・GRAVURE SUR SOIE・TRAVAIL DU BOIS: M.Noguti

ART FLORAL: Ecole Eigetsu shofu, ART FLORAL: Ecole Sogetsu Classe de Shimmi

ÉTOFFE DE COTON PIQUÉ: Cercle Jeudi,

PATCHWORK/QUILT: Cercle An et ses amis

DENTELLE: Grope Yumi No Hankachi, TRAVAIL DE LA RÉSINE: Groupe Tadao-H

CRAVATES TEINTÉES À LA MAIN: École Culturelle d'habillement du Japon

CALLIGRAPHIE: Groupe Issuikai,

ART DE L'HABILLEMENT: École de Kimonos de Fuji

POUPRÉES FAITES À LA MAIN: Classe de poupées Hakoisi,

ART DE L'ŒUF: Mme Kosaka

b. 舞台上演 (Spectacles)

4月19日 20:00-20:30 CHŒUR ACCOMPAGNÉ DE JOUEURS DE KOTO EN  
KIMONO: Chorale de Voix de Femmes de Mashiki

20:40-21:10 CONCERT DE MUSIQUE INSTRUMENTALE KOTO:  
Groupe Tamura

21:20-21:50 CHANSONS FOLKLORIQUES JAPONAISES: Groupe  
Manyo Kai

4月20日 15:00-15:20 NOUVELLES DANSES FOLKLORIQUES JAPONAISES:

- Association de danse folklorique de la ville de Kokubunnji  
 15 : 30-16 : 10 CHŒUR ET NARRATION: Université de Jeunes Filles de Tokai  
 16 : 20-16 : 50 DANSES MODERNES: Groupe de danse moderne Hisako Ozawa  
 4月21日 20 : 00-20 : 30 DANSE JAZZ: Studio Amuse  
 20 : 40-21 : 10 PRÉSENTATION DE COLLECTIONS DE KIMONO: École de "Kimono Sodo"  
 21 : 20-21 : 50 DANSES MODERNES: Groupe de danse moderne Poisoning

### (3) モダンダンス上演と観客の反応

4月19日に会場でのリハーサルと音響や照明プランと舞台進行の確認が行われた。20日は朝から楽屋入りし、午前中にドレスリハーサル及びスタッフとの最終打合わせが行われ、午後、いよいよ本番を迎えた。上演した2作品は小沢輝佐子振付で、「RUNNER」は女性12名、男性1名による、躍動感に富むダイナミックな作品である。10年以上前の初演から、音楽、構成を替えながら上演を重ねてきた。毎日時を刻み走る人々—人生のランナーというテーマが明確に打ち出されていて、アメリカやロシアでの公演でも熱狂的な支持を受けた、この舞踊団の代表的作品といえるだろう。音楽はヴァンゲリス。「幻の狼」は、原子修作詩の、かつて北海道に生息し絶滅したエゾ狼がテーマになっている。1992年札幌において初演。男性1名、女性4名で演じられた。音楽はジャン・ミッシェル・ジャールの「幻想惑星」に丸谷小一郎による詩の朗読が入った構成になっており、今回は詩の内容を仏訳した解説が配布された。フランスでも南に位置する地域のためか、狼を知らないという観客もいたが、終演後、作品に共感を覚えたという興奮気味に語っていた。振付家に感想や質問が寄せられ、モダンダンスへの関心の高さを伺わせた。会場となったクロード・ドビッシェ劇場は定員1000名の座席がほとんど埋まり、カーテンコールでは盛大な拍手を受けることができた。

同劇場において19時30分からカンヌ市主催のレセプションが行われ、参加者に感謝状と記念品が渡された。20時30分からは会場を移しディナーパーティーが行われた。アトラクション

図3 クロード・ドビッシェ劇場舞台

#### ■劇場舞台

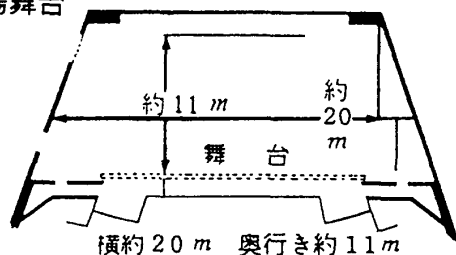


写真3 クロード・ドビッシェ劇場でのカーテンコール



にプロヴァンス地方の民族舞踊や音楽なども披露され、カンヌ最後の夜を締めくくった。参加者の中には第1回から毎年訪れている人もいて、現地の行き届いた対応や、観客の反応を目の当たりにすると頷ける気がした。

## 2. コート・ダジュール地方で開催される主なフェスティバル

プロヴァンス地方のフェスティバルは、15世紀にこの地の君主が全土の文化・芸術を集めて民族文化の振興に努めた時からの伝統があり、2月に行われる有名なニースのカーニバルのように長い歴史をもつものも多い。コート・ダジュール地方でも下記のように、毎月国際的なフェスティバルが開催される。期間は1週間から長いものでは1カ月にわたる。

2～3月：5e Festival international de musique classique (Cannes), Festival international des jeux (Cannes)

3月：New-Orleans les Pins Jazz Festival (Antibes), 12e Grands prix magiques de Monte-Cario (Monaco), 5e Colombe d'or (Antibes)

3～4月：Printemps des Arts (Monte-Cario)

4月：11e Cannes Musiques passion (Cannes)

5月：Festival International du film (Cannes),  
Festival International de bridge (Antibes)

6月：25e Festival International du jeune solist (Antibes), Festival International de la performance d'acteur (Cannes),  
Festival International du film publicitaire (Cannes)

6～7月：3e Festival International "Jazz à Cannes" (Cannes)

7月：Art Jonction Cannes (Cannes), 21e Nuits musicales du Suquet (Cannes),  
Jazz à Juan (Antibes)

7～8月：Festival du théâtre de la mer "Jean Marais" (Vallauris),  
31e Festival International de feux d'artifice de Monte-Cario (Monaco),  
Festival du cloître de Cimiez (Nice)

8月：47e Festival de musique de chambre (Monton), Fête de la poterie (Vallauris),  
Les Estivales de Cannes (Cannes)

9～10月：3ème Cannes Théâtre Festival (Cannes)

11月：23e Festival mondial de l'image sous-marine (Antibes), M. A. N. C. A. (Nice)

写真4 プロヴァンス地方の民族舞踊団



11～12月：11e Festival International de danse (Cannes)

12月：Festival du film maritime et militaire (Antibes)

### 3. フランスにおけるコンテンポラリー・ダンスにフェスティバルが及ぼした影響

#### (1) フランスにおけるダンス・フェスティバル

フランスにおいて舞踊，特にコンテンポラリーダンスの分野は米国に遅れを取っていたが，1970年代頃から急速に注目されるようになってきた。特に既成のダンスの枠組みに捕らわれない若手の台頭はヌーベル・ダンスと呼ばれるひとつのジャンルを築くと共に，世界的なダンスの活性化を促したといえる。この若手の振付家の発掘と育成に，フェスティバルが果たした役割は大きい。

1969年にバニョレで振付コンクール「明日のバレエ」が開催され，現在では振付家の登竜門となっているバニョレ国際振付コンクールの先駆けとなった。70年代に入り，フェスティバル・ドートンヌとフェスティバル・ダ・アヴィニョンが開かれ，当時不活発だったパリのコンテンポラリー・アートを刺激するために，10年にわたりアメリカのモダンダンスが毎年紹介された。1981年には，文化の活性化に熱心なモンペリエ市長の要請で，若手の振付家がモンペリエに定住して創作活動をするようダンス拠点の誘致と，フェスティバル・アンテルナショナル・ダンスの開催が実現した。エクサン・プロヴァンス地方ではアメリカ出身のスーザン・バージュが芸術監督となり，インターナショナル・ダンス・フェスティバルが始まり，ワークショップを行うなど若手の養成に力を入れた。1984年に始まったピアンナレ・アンテルナショナル・ド・ラ・ダンスは，ジャーナリストのダメル氏がガリオン市の文化の中心をダンスにおくという政策を打ち出し，行政を巻き込むに至った。

#### (2) 国際的な評価の高いフランスの舞踊振興施策

フランスでは現在200余りといわれるコンテンポラリー・ダンス・グループが，創作活動の活発さと多彩さでかつて見られなかった活況を呈している。これにはフランス文化省と地方自治体が，コンテンポラリー・ダンスに対して向け始めた関心と助成金の働きが無視できない。

ダンス・フェスティバルの質の高まりを受けて，文化省音楽課の予算の1%がダンスに回るようになった。現代舞踊の予算が正式に文化省予算に組み込まれた1983年には，若手のダンサーと振付家に作品発表の機会を与えることを目的に，パリにTCDが設立された。特筆すべきはナンシー演劇祭の創始者であるジャック・ラングで，文化大臣に就任した1981～1986年に思い切った若者文化振興政策を実施した。この時期に文化省にダンス諮問委員会が設けられ，地方都市に振付センターができ，80年代初頭の新しいダンスを目覚ましく成長させた。また近年外務省の出先機関であるAFAAの強力な仏文化輸出のための公演ツアー助成金によって，フランスのヌーベル・ダンスは世界各地で公演を行い，アメリカのモダンダンスとは異なる斬新さで国際的評価を高めた。

#### (3) 養成機関CNDCの設立

フェスティバルで新しいダンスに接した一般大衆のダンスへの好みの高まりを受けて，古典

バレエを教える、伝統ある国立のバレエ学校に加え、1978年に国立現代舞踊センターCNDCが開設された。正式名称は、サントル・ナシオナル・ド・ダンス・コンタンポレンヌ・ダンジェ／Centre National de Danse Contemporaine d'Angers（アンジェ国立現代舞踊センター）で、国家とアンジェ市の折半で設立された。1984年にミッシェル・ラヤックがアート・ディレクター、コーディネーターという形で就任すると、CNDCは①人材育成②作品製作③普及という3つの方向をよりはっきりと明示し、フランス独自のダンスが育つ土壌を作った。更に1985年には教師を養成するコースが新設され、終了者は各地にあるコンセルヴァトワールのモダンダンス部門の教師となった。

#### (4) ダンス資料の整理とビデオダンス・フェスティバル

ポンピドゥ・センターは1982年以来毎年ダンスのフィルムフェスティバルを開催し、現代のダンスのドキュメント、ポートレート、映像作家の手によるダンス映画、貴重な昔のダンス映像を公開している。また、下記の資料館でも形として残らないダンスの記録を進めると共に、情報公開をしている。

##### 視聴覚資料館

- ・ Service des Archives du Film du Centre National de la Cinématographie (Michelle Aubert)  
住所 7 bis, rue Alexandre Turpault 78390 Bois d'Arcy ☎ +34602050
- ・ Cinémathèque de la Danse (Patrick Bensard) 住所 29 rue de Colisée 75008 Paris ☎ +45-532186

##### 博物館

- ・ Paris Opéra Archives (Martin Kahane) 住所 c/o Bibliothèque de l'Opéra, Théâtre, National de l'Opéra, Place Charles Garnier 75009 Paris ☎ +1-47425371

95年にはヴィレット地区に、音楽や振付に関する資料に当たることができる音楽ダンス・インフォメーションセンターがオープンした。

TVやビデオの普及と、他の芸術分野とのコラボレーションが盛んになったことから、記録という目的にとどまらないビデオダンスと呼ばれる分野が出現した。実験的な映像とダンスの新たな表現方法の模索が試みられている。演じる側と観客が同じ時空間に存在しない点で従来のフェスティバルと対極にあるビデオダンスの普及は、フェスティバルにおける身体性を際立たせることになった。フェスティバルの意味と新たな可能性を問い直す契機になるかもしれない。

### III おわりに

北海道では町や村興しのために、次々と新しいフェスティバルが企画されている。これを単なる一過性のお祭りや人集めの観光イベントで終わらせず、地方からの文化発信にまで機能させているフランスの例は、フェスティバルの目指す一つの方向を示しているといえるだろう。今回実際に現地のフェスティバルに参加して、フランスにおいてフェスティバルが成功している背景には、優れたディレクターの存在と観客の厳しい目があると感じた。経済効率に捕らわ

れ安易に出演者や団体を選んでいては質的な向上は望めず、参加者も観客もやがて飽きてしまう。専門知識を持つディレクターが長期的視点に立ち、方向を示していくことで、回を重ねるにつれ住民を含めた観客の見る目が養われ、フェスティバルも成長していく。フェスティバルが若手に発表の場を与えたことで、フランスのコンテンポラリー・ダンスは大きく発展した。それに平行して、一般の人々のコンテンポラリー・ダンスへの関心が高まり、国や地域の資金援助を可能にしていった。その結果、海外に輸出できる独自の文化であるヌーベル・ダンスが形成されたのである。

## 付 記

本研修は北海道女子短期大学における平成7年度教員特別研究費の助成によるものである。

## 参考・引用文献

- 長谷川六, ダンスコンタンポレンヌ [フランス現代の舞踊], ダンスワーク舎, 1990  
上林澄雄, 二十世紀の舞踊史, ダンスワーク舎, 1992  
㈱電通映像事業局, もっと知りたい南仏プロヴァンスQ&A, 亜紀書房, 1995  
フランス政府観光局, ニューズレター, No.77, 1992, No.90, 1994, No.91, 1994, No.94, 1995,  
No.108, 1996  
フランス政府観光局, NOUVELLES FRANCE, No.401, 1995  
東京書籍編集部, 最新ヨーロッパ各国要覧, 東京書籍株式会社, 1993  
Vidéodanse 94 Films de Danse, Centre Gorges Pompidou, 1994  
Video Dance 1994 プログラム, 新書館, 1994